

専攻科福祉専攻 ～生活支援技術の授業紹介その②～



海の方からはねぶたの囃子練習の音色が聞こえてくる今日この頃。皆様いかがお過ごしでしょうか。私、学生ルポライターちゅんは幼い頃からねぶた祭りに参加していたため、二年ぶりの今年の開催をとっても楽しみに思っています。流行り病が猛威を振るう毎日ですが、みんなで手洗いうがいなどを徹底して、楽しい夏休みが迎えられたらいいなと願っています☆彡
今回は前回に引き続き「生活支援技術」の授業の様子を紹介していきたいと思います！

手浴実習

手浴とは、温かいお湯を用いて手を丁寧に洗うことを指します。手浴は入浴よりも体への負担がないというメリットがあり、気分転換や血行促進、リラクゼーション効果が得られるとされています。今回は、ビニール袋とタオルを用いて少量のお湯でも効率的に手浴できる方法について学びました。手の触れ方や、お湯のかけ方など、動作一つ一つに利用者を思いやる配慮がされていることが分かりました。



洗髪実習

左の写真はゴミ袋とタオル、クリップで作った土手を使ってのベット上での洗髪を行っている様子です。この洗髪は、寝たきりの利用者様に対して主に訪問介護で用いられている方法です。寝たままの方に対しての洗髪は難しく苦戦しましたが、お互い声を掛け合いながら楽しく実習を進めることができました。また、タオルとゴミ袋などの身近な生活用品がこんなにも介護現場で生かされるんだと知り、驚きました。



入浴実習

七月中旬、専攻科実習室内にある特殊浴槽を用いた機械浴の実習を行いました。この実習では、機械浴までの一連の流れ(ベッドからストレッチャーへの移乗→ストレッチャー上での洗髪、洗体→浴槽への移動→湯上り後の清拭、着衣介助)について学びました。実際に入浴する側の体験をしてみて、ベルトで固定されたまま浴槽のお湯が上昇する怖さを感じることができました。このことから、利用者様が不安にならないような声掛けをすることの大切さが良くわかりました。



実技テスト合格に向けて

生活支援技術の授業では定期的の実技テストが実施されています。



実技テストの内容は、今までの国家試験の実技試験に基づいたものになっています。実際の介護現場のような状況下が課題として指定されていて、その場面での適切な生活支援技術を指定された5分以内で行います。

一発合格を目指して、空きコマや放課後等、日々の練習に励んでいます！

